

北海道学生研究会SCAN主催

第5回合同研究発表会

市民文化活動のネットワーク分析

～函館地域の事例から～

公立はこだて未来大学 システム情報科学部
情報アーキテクチャ学科 情報システムコース

田柳研究室 金谷 翼

指導教員 田柳 恵美子

1.目的と背景

本研究の目的

- 地域社会で文化的活動を行う人々のつながりをネットワーク分析の手法を用いて調査する.
- 10~20代の若者が文化的活動を通して社会参加を果たし、活動を先導していくケースを探る.

背景

文化活動に対する世論調査

Q.文化芸術活動を行う事についてどう思うか.

→「大切だ」とする者が88.5%.

Q.この1年間に文化芸術に関わる活動をしたか.

→「特に行っていない」は76.1%.

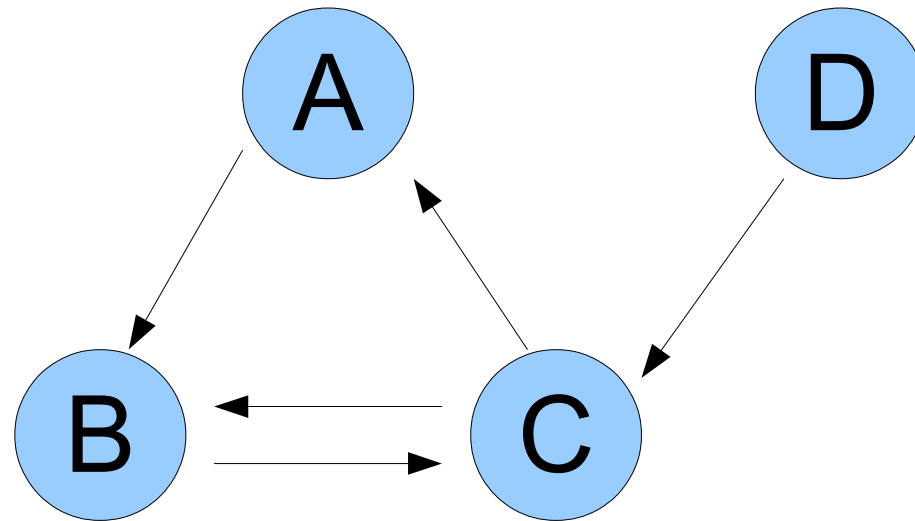
Q.地域活動へ中心メンバーとして参画しているか.

→20代の約6割は「関わりたくない」.

2.研究方法

研究手法

ネットワーク分析

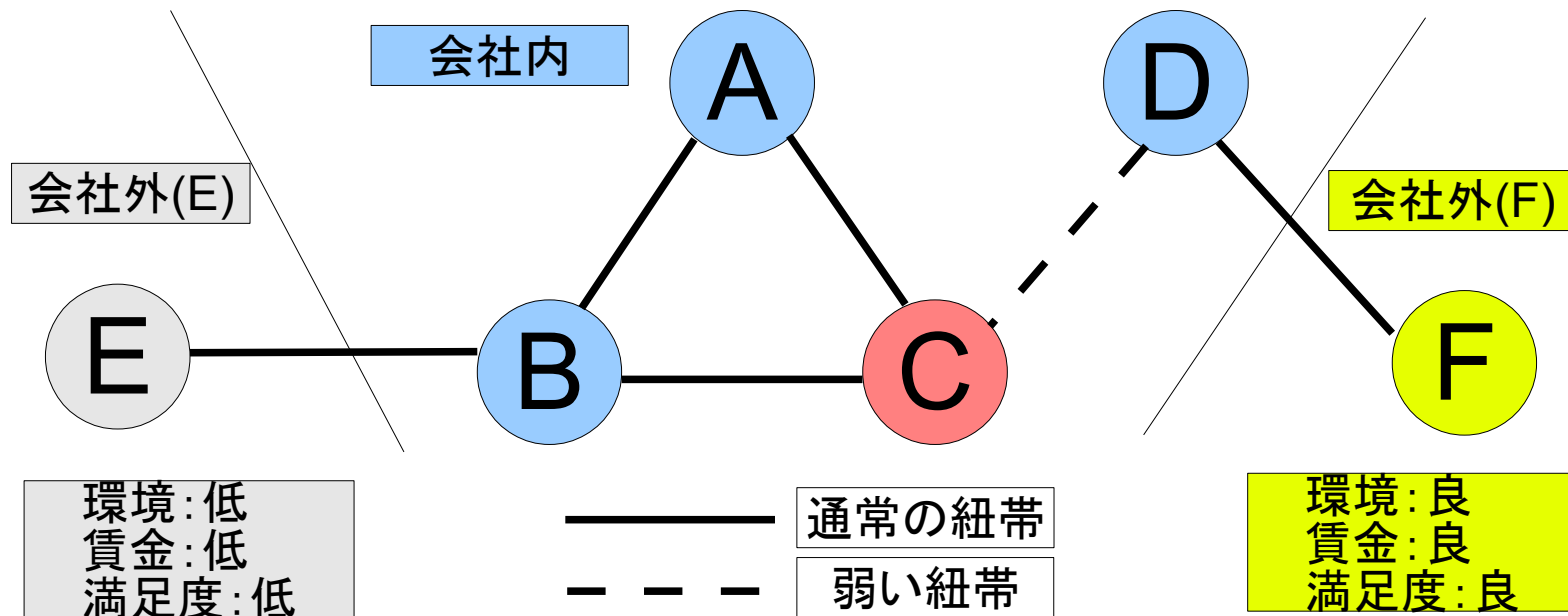


ネットワーク分析とは人のコミュニティ, 社会構造を「繋がり」として概念化, それを分析するものである.

先行理論

弱い紐帯の強さ(1974, グラノヴェッター)

- 弱い紐帯は「異質的」な情報を得られる。



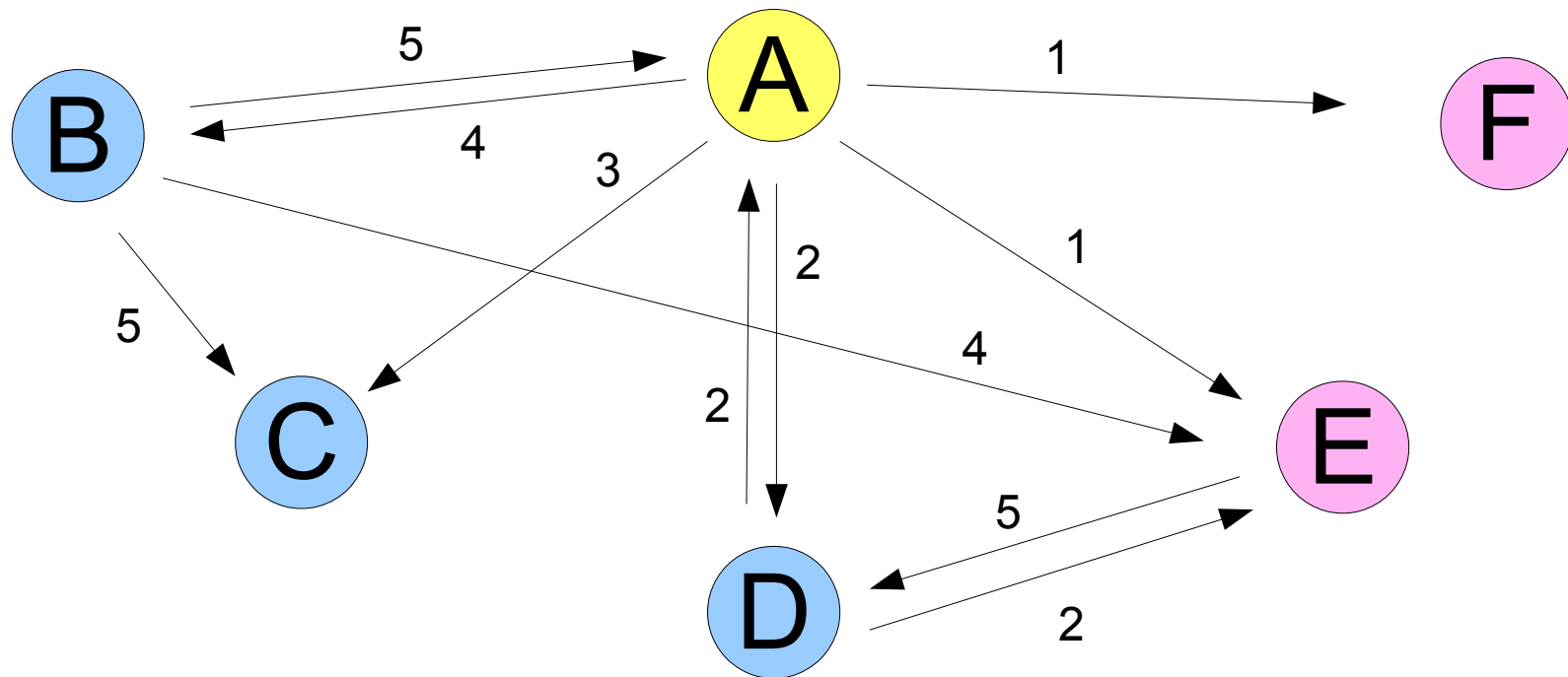
CはDから転職に関する情報を得たほうが、
収入や満足度が高い仕事につくことができる。

調査方法

ネットワーク分析のための質問紙調査

- ネームジェネレータ(名前想起法)

個人が持っているネットワークに属している人々を特定化する質問をすること.



調査方法

5件法による弱い紐帯の定義

- 5件法

連絡回数等を5段階で評価し、紐帯の強さを比較.

本研究における弱い紐帯の定義

連絡頻度	毎日	週2~3回	週1回	2週1回	月1回
評価	5	4	3	2	1
紐帯	強	中		弱	

2次調査

主催者へのインタビュー調査

- どのように運営を行っているのか.
- 新しい参加者の募り方.
- どのようにして主催者が入れ替わるのか.
- なぜ活動を引き継ごうと思ったのか.
- 前主催者との当時の関係.

3.調査団体と仮説

調査団体

- Joint Art F.E.S ぷらっと

イベント内容	アート全般
設立年	2010
運営	複数人
年齢層	30~40代



- 函館インディーズ

イベント内容	音楽ライブ
設立年	2002
運営	主催者のみ
年齢層	10~20代



仮説

- 参加者数を伸ばす団体，長年の活動が続く団体，
両団体では弱い紐帯が多く見られるのではないか。
- 主催者が引き継がれる「ハコイン」では，
「世代継承モデル」があるのではないだろうか。

4. 調査分析

ネットワーク分析

(1)社会的ネットワーク

ネームジェネレータに基づく紐帯の全体像.

(2)参加誘引ネットワーク

誰から情報を得て参加したのか.

(3)近接中心性

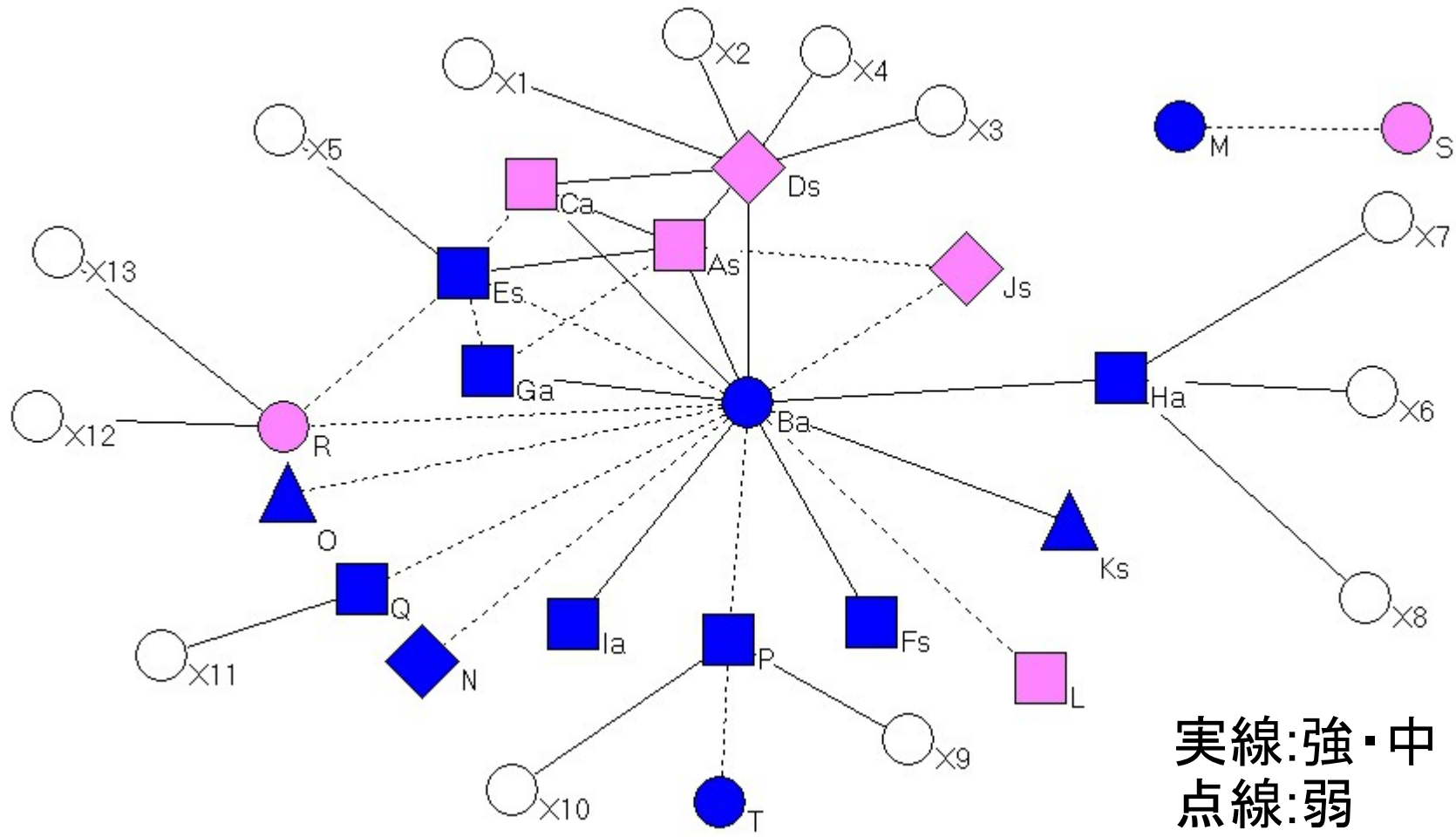
両団体,主催者の情報の得やすさ.

(4)媒介中心性

情報の橋渡しや,切断点の値の大きさ.

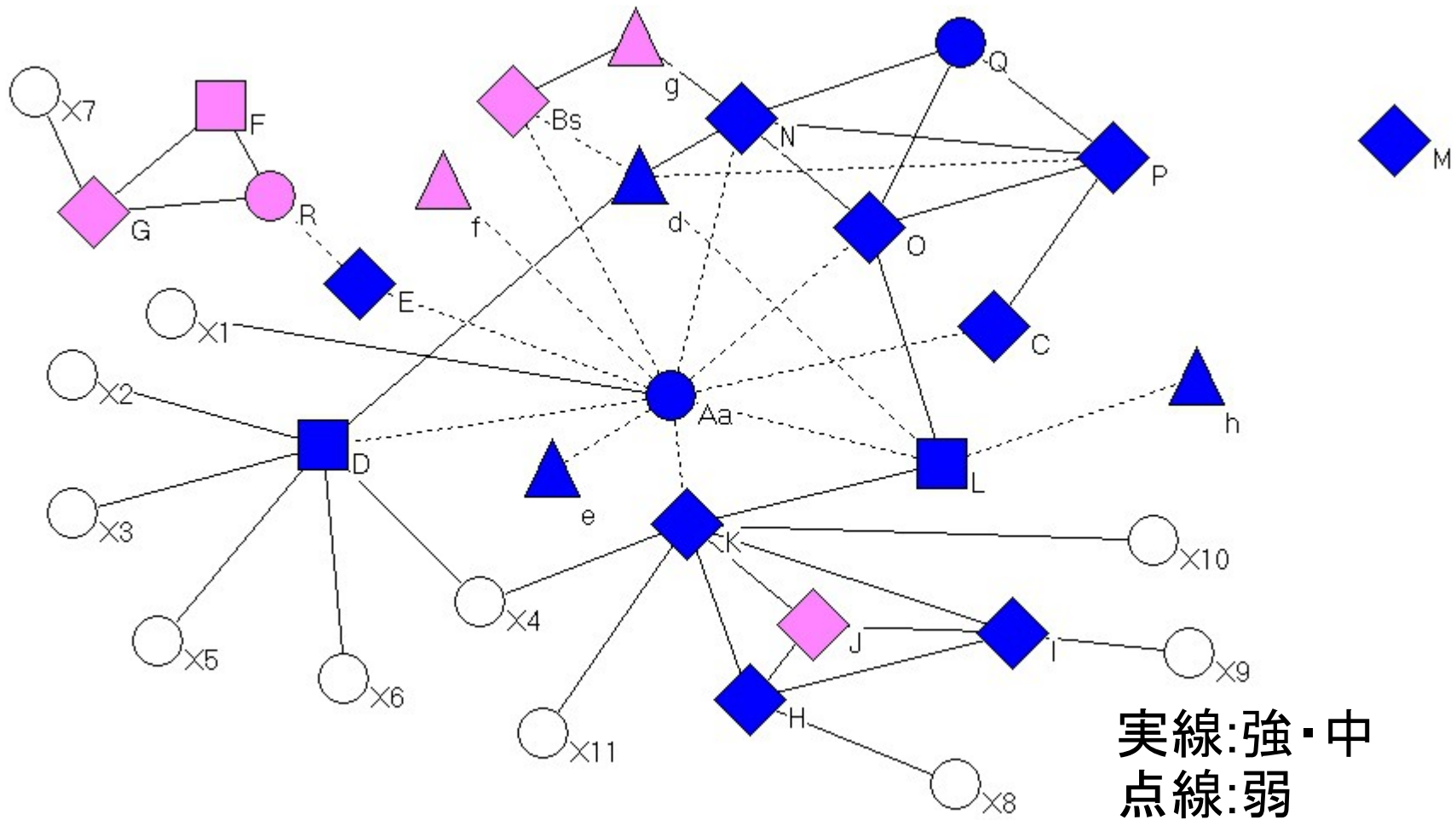
ネットワーク分析(1)

「ぷらっと」の社会的ネットワーク



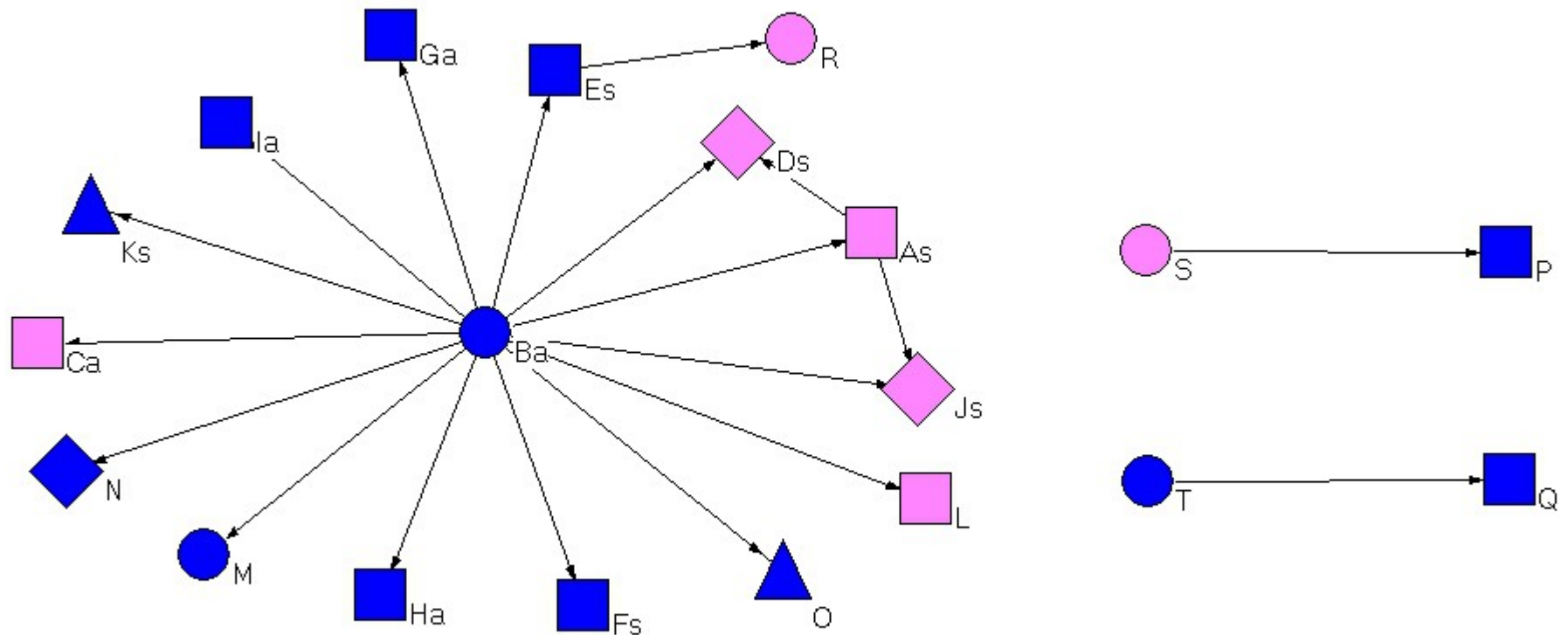
ネットワーク分析(1)

「ハコイン」の社会的ネットワーク



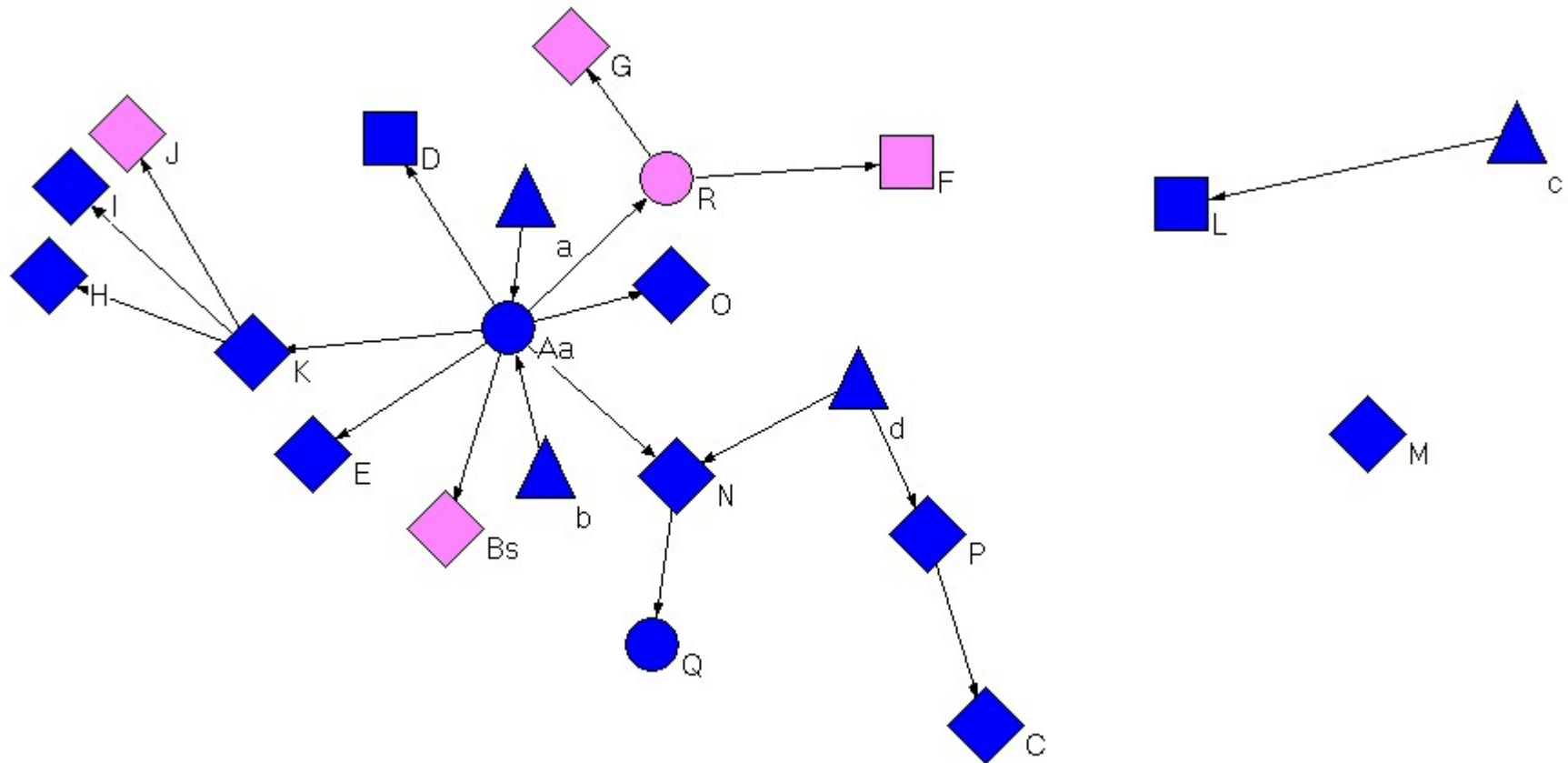
ネットワーク分析(2)

「ぷらっと」における参加誘引ネットワーク

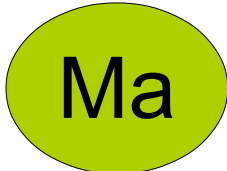
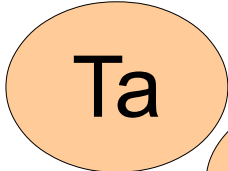
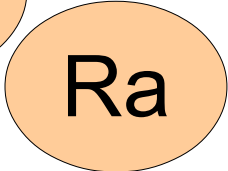
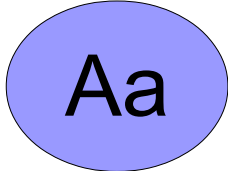
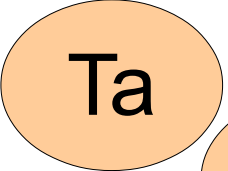
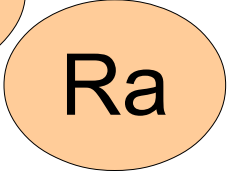
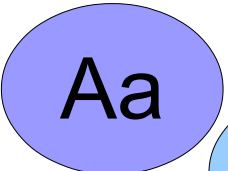
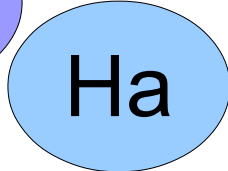
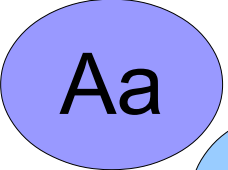
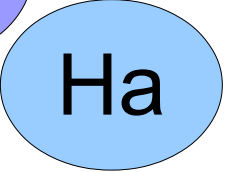


調査分析(2)

「ハコイン」における参加誘引ネットワーク



2次調査インタビュー分析 「ハコイン」主催者の推移

	初代 2002~	2代目 2004~	3代目 2006~
主催者		 	
スタッフ	 	 	
来場者 参加者	 		

2次調査インタビュー分析 なぜAaは主催者になったのか？

- 「当時の運営中心メンバーとよく話すようになった。」
→ 紐帯による拘束, 「帰属意識」の芽生え.
- 「ブッキングやホームページ編集を手伝っていた。」
→ 中心ノードへの擬似化, 「責任感」の芽生え.
- 「出演場所がなくなるバンドも多い。」
→ 中心ノードのすり替え.

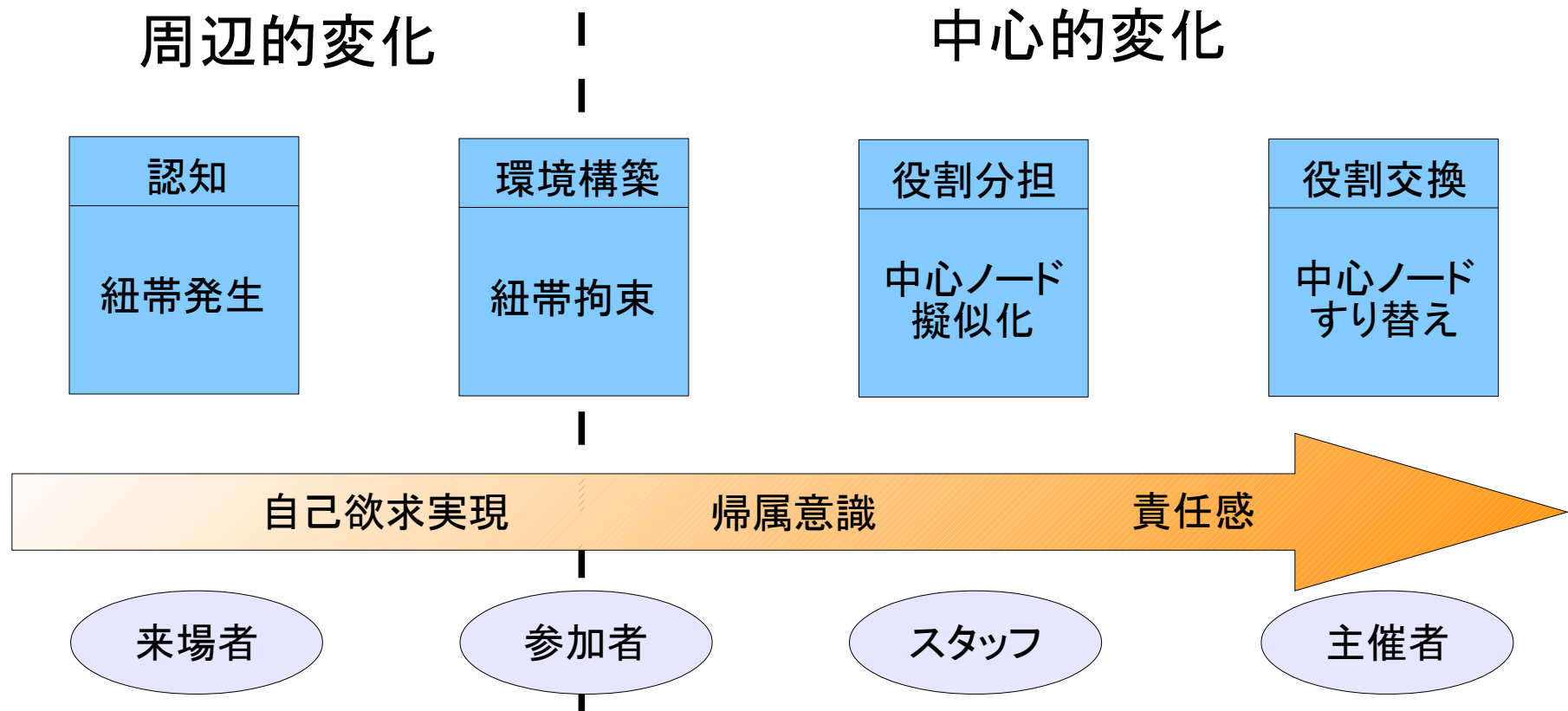
5.まとめ

発見事項とモデル

発見事項

- 1.両団体では弱い紐帯が多く見られた。
 - 「オープン」な団体運営を心がけている。
 - 参加者に「新たな出会い」を提供している。
- 2.「ハコイン」では世代継承性が多く見られた。
 - 学生という母集団へ情報が媒介される。
 - 次世代バンドの育成場所としての利用。
- 3.「紐帯拘束」と「役割分担」が新主催者を生む。
 - 「帰属意識」と「責任感」が契機に働く。

「ハコイン主催者」の分析に基づく 世代継承モデル



- 新たな主催者へと世代継承させるためには
「帰属意識」を高めさせ、「役割」を持たせる。

今後の課題

- 卒業論文作成.
- 調査団体への研究結果報告.

6.参考文献

参考文献

- [1]阿部真大,2013,「地方にこもる若者たち」,朝日新聞出版,214pp.
- [2]石黒格/李永俊/杉浦裕晃/山口恵子,2012,「東京」に出る若者たち」,ミネルヴァ書房,275pp.
- [3]国土交通省,第I部 安全・安心社会の確立に向けた国土交通行政の展開,
<http://www.mlit.go.jp/hakusyo/mlit/h17/hakusho/h18/html/H1022100.html>,
2014/7/14
- [4]佐々木茂,2011,「箱館の音」,キャンパスコンソーシアム函館,41pp
- [5]総務省,第1部 特集 ICTが導く震災復興・日本再生の道筋,
<http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h24/html/nc112120.html>,
2014/7/14
- [6]中野勉,2011,「ソーシャル・ネットワークと組織のダイナミクス」,有斐閣, 307pp.
- [7]沼田真一,2011,「市民参加型イベントにおけるソーシャル・キャピタルの考察」,ソシオサイエンスVol.17,159-174pp.
- [8]根元祐二,2013,「豊かな地域」はどこがちがうのか」,ちくま新書,271pp.
- [9]野沢慎司,2006,「リーディングスネットワーク論」,勁草書房,288pp.

参考文献

- [10]函館市民会館開館40周年記念誌発行委員会,2010,「函館市民会館の歩み」,財団法人函館市文化・スポーツ振興財団,81pp
- [11]M・グラノヴェター(渡辺深 訳),1998,「転職」,ミネルヴァ書房,312pp.
- [12] 内閣府,男女共同参画局 男女のライフスタイルに関する意識調査,
<http://www.gender.go.jp/research/kenkyu/lifestyle/index.html>,
2014/7/14
- [13]内閣府,文化に関する世論調査,<http://www8.cao.go.jp/survey/h21/h21-bunka/>,
2014/7/14
- [14]波多野蟬,2013,「地域芸術振興における市民性の再考」,32pp.
- [15]堀有喜衣,2004,「無業の若者のソーシャル・ネットワークの実態と支援の課題」,日本労働研究雑誌No533,38~48pp.
- [16]安田雪,2011,「パーソナルネットワーク分析」,新曜社,266pp.
- [17]安田雪,2001,「実践ネットワーク分析」,新曜社,188pp.
- [18]安田雪,1997,「ネットワーク分析」,新曜社,219pp.